



特集記事

「パーマメント・ウェーブ用剤基準等の歴史と日本パーマメントウェーブ液工業組合」

リアル化学株式会社 村林 茂

巻頭言

第55回総会報告

技術委員会報告

パーマ統計調査報告

M G K 便り

事務局だより

編集後記

副理事長 間仲 博

事務局

技術委員長 岡野 みのる

広報委員会

JPWIA

日本パーマメントウェーブ液工業組合

巻頭言



日本パーマメントウェーブ液工業組合

副理事長 間仲 博

この巻頭言を令和2年9月に入り書いております。本来であれば東京オリンピックパラリンピックのチケットも入手出来たので、この明るい話題で書き上げようと考えておりました。しかし本年初頭よりコロナ感染(COVID-19)が広まり、東京オリンピックパラリンピックは来年に延期となってしまいました。そしてコロナ感染はあっという間に世界中に広まり、予想をはるかに超え、未だに先が見えない状況が続いています。因みに比較されているスペイン風邪ですが1918年から1920年にかけて、当時の世界人口の四分の一、5億人が感染したそうで、現時点での世界のCOVID-19感染者数は2,800万人です。

今現在、世界では34種のワクチンが臨床試験の段階だそうですが、まだ認可は取れていない状況です。現状では手洗いとうがいの励行、そして三密を避けるだけの対処しかできません。世の中のほとんどの業種が多大な影響を受け、いかに企業を存続させていくかが最優先課題であると思われる。

美容業界ですがパーマ剤の出荷動向を見ますと、直近の数字は当然、コロナの影響が出ております。ここで出荷動向を振り返ってみますとパーマ剤のピークは1992年(平成4年)の280億円ですがこの年だけ突出しており、ピーク前後の4年間で平均すると約250億円と思われます。パーマ剤の出荷合計金額は1973年(昭和48年)が約75億円であり、その後毎年10億円ほど順調に伸び続けピークの250億を迎えました、その後は一気に下降をたどり、2019年では約71億円とほぼ1973年と同じ出荷合計金額となり、ピーク時の約28%となっております。パーマ剤ばかり数字を見てきましたが、他業界はどうなのでしょう?たまたま最近目についたのがデジタルカメラ業界の出荷合計の推移です。

デジタルカメラ(小型と高級機の合計)は2010年が1兆6000億円(輸出を含む)でピークを迎え2019年度の出荷合計金額は4400億円と僅か10年でピーク時の約28%と偶然ですが、パーマ剤と同じ数字が出ております。違いは美容業界が30年間で経験してきたことをデジタルカメラ業界は10年間という短い時間で経験したことです。主な原因は携帯電話の普及ですが、パーマ剤はこれに比べるとはっきりした原因はいまだにわかっていません。いや、これと言えははっきりした原因は無いのでしょうか。ただバブル直後にカラーブームが起り、ヘアカラーによる売り上げ増加が美容業界全体の売り上げの急激な下降をカバーし、危機感がそれほど感じられなかったのかもしれませんが、また、カラーとパーマが同日の施術が薬事上出来なかったことも影響があったのかとも思います。因みにデジタルカメラ業界の対応は、内視鏡等の医療分野に移行、または高級機へシフト、更に撤退などで対応をしていますが、私が注目するのは、デジカメとは少し違いますが、富士フイルムで主力製品のフィルムが無くなってしまったという大ピンチに際し見事な業態変化を遂げたことです。なんと化粧品、サプリと一見、全く関係ないような業種に活路を見出しています。これは短期間で迫ってきた難題に会社全体が大きな危機感を感じ、全社員が立ち向かったからではないでしょうか。

今回のコロナ禍はまさに瞬間的に出現した大ピンチです。これをどう切り抜けるか?仕事の大きな変化へのステップはテレワークからだと思えます。向いていない職種とこれで通用する職種があるとは思いますが、実施してみると今後に向けて大きな変革のヒントがいくつも見えて来るのではないのでしょうか。

最後に当組合の活動ですが、今期の主な広報活動であったパーマ活性化策としてパーマのメリットを伝達するための動画を作成するワーキンググループの活動はコロナ禍のために延期となりました。

当組合のホームページをリニューアルするためのワーキンググループは作業を開始しております。今年度の薬事説明会は開催の可否も検討いたしました。会員の皆様への情報提供の必要性を考え、Webセミナーという形式で11月11日に開催を予定しております。

当組合は会員の皆様とパーマの復活による美容業界の発展を目指し努力する所存でございます。